

珊瑚舎スコーレ・夜間中学校

まちかんてい!通信 特別号

がっこう・N.P.O.



珊瑚舎スコーレ夜間中学校の説明を少しさせていただきます。

珊瑚舎スコーレ夜間中学校は2004年に開設されました。

正確な資料はありませんが、沖縄戦後の混乱と貧困のために、義務教育未修了者が沖縄には非情に多いと言われていました。親兄弟、親族を失った人、労働力として家族を支えなくてはならなかった人。それぞれの理由で、子ども時代に学校に通えなかった方々の中には、今からでも学校に通って勉強をしたいと思っている人が大勢いらっしゃいます。

ある方は「七歳のときから自分が通う学校がいつかできると思い、六〇年待ちました」、またある方は「夜間中学校開設の新聞記事を見て、鳥肌が立った」と語りました。長年この日を待ちかねていたのです。珊瑚舎スコーレ夜間中学校には現在一年生から三年生まで70~80歳代を中心に22名が在籍しています。また、これまでの入学者は176名余り、高校に進学した生徒は30名です。授業は月曜日から金曜日までの午後6時から9時、毎日3時間ずつ、英語、日本語、数学など9教科の授業をボランティアの方達が担当しています。授業の他、遠足、修学旅行、学習発表会など様々な行事もカリキュラムに組み込まれています。生徒の皆さんの向学心は旺盛で卒業生の半数近くは高校に進学しています。

入学した生徒たちは

- ・「夜間中学は頭が疲れます。なにしろ初めてエンピツを持つんです。昨日算数の計算ができたので思わず自分で自分の名前を言い、〇〇さんは自分一人でやって計算合ったよと叫んだら、クラスみんなが拍手してくれました。家族全員が応援して

くれます。娘は、これまでの60年はこれから60年かけて埋めていくのよと励ましてくれます。」

- ・「夜間中学に入ろうと思ったのは勉強したいと同時に同級生と呼べる友人が欲しいからです。そして生涯に一度卒業証書を受け取りたいのです。授与される場面に立ちたいのです。夫に話したら「お金と同じで、あの世に習ったものを持っていくことはできないよー」と言うので「極楽に入る時試験があるかもよー」と言って大笑いをしました。学ぶことはなにかも始めてで、とても楽しいです。これまではエンピツがドラムカンより重いと思っていましたが、今はだいぶ軽くなりました。」
- ・「最初は夏までもつかなあと不安でした。今はクラスで教えあっているので、頑張れそうです。競い合うのではなく支え合う学校だから楽しいです。同級生の輪があり、素顔でいられます。この学校の先生のすばらしいのは分からないことを分からないと言えることです。どこを復習すればいいのか分かるので授業の注文はたくさん出してとってきます。」
- ・「二年生になって学校に行くのが楽しいです。算数が楽しいです。することやることすべて楽しいです。夜間中学に行くまでは家事も丁寧にやっていました。でも今は学校の本をみるのでなにかもほったらかしです。でもこれでいいと思います。今の自分には家事より勉強が先です」

と学校生活の喜びや楽しさを語っています。

2006年9月、全国から寄せられた署名とともに請願を行い、2008年度から沖縄県教育委員会は珊瑚舎スコーレ夜間中学校の卒業生に対し、中学校卒業資格を付与することを認めました。

* * * * *

通信名の「まちかんでい」(待ちかねていたよ)は「7歳のときから自分が通う学校がいつか出来ると思って、六十年待ちました。夢は実現するものですね」と話してくれた生徒の言葉からもらいました。

* * * * *

連載・聞き書き から

〈Y・Aさん〉・・・現在 中学2年生

小学校には入学はしましたが、ほとんど通えませんでした。母が病弱で、ヤギやブタを飼っていましたし、水汲みも大変な仕事でした。戦争が始まり父は兵隊に採られ、その後空襲で壕の中で即死したと聞きました。空襲が激しくなり、母、祖母、兄、私、妹3人でバンナ岳の山に逃げました。幸い山の中に小屋と畑を持っていたからです。でも、その畑の芋も夜になると兵隊が採りにきて私らの食べるものはほとんどありません。あったのは水だけです。山ですから水だけはあまるほどありました。家族全員が栄養失調になり次々にマラリアにかかりました。特に母は体が弱かったせいもあり、一番先に死んでしまいました。マラリアは毎日同じ時刻に高熱を発し、ぶるぶる震えだします。ひどくなると目が黄色くなり、顔と腹が膨らみその後は骨だけになるのです。

看病しようにも薬があるわけなし、食べるものがあるわけではなし。震える体をなで、水を飲ませてやるだけです。次々と亡くなり、私だけが生き残ったのです。

終戦の時、数えて13歳になっていました。祖母の実家が酒屋で、そこにもらわれていきました。大きな家で女中が何人もいました。買われてきたのです。ある日私のことが話題になり、いつが年季明けなのかと問われたら叔母さんが、この子は

嫁に行くまでと答えたのを覚えています。そうなのかと観念していましたが、叔母さんが亡くなり、この家の子どもとケンカして飛び出してしまいました。結果5年いました。島は狭いのでこの子どもで、どんな環境かが分かっているのです。豆腐を売り歩いてもみんなよく買ってくれました。

18歳で親戚の叔母さんをたよって那覇に出ました。厳しい人でした。酒屋では精神的な苦労はありませんでしたが、ここでは座り方、ごはんの食べ方、掃除の仕方など様々なことを躰けられました。掃除などは終わりましたと言うと必ず指でこすって確かめられます。誉められたことは一度もありません。商売のイロハも教わりました。学校を出ていない私が今夜間中学の授業になんとか付いていけるのは、この時お金の計算を仕込まれたお蔭です。晴れた日は染物です。大鍋に湯をわかし染料を入れ、叔母さんの指示で漬け込んだ時間を計りながら引き上げ、浸すを繰り返し、最後に酢と塩をいれて色止めをします。雨の日はミシンで下駄の鼻緒作りです。布団も作れます。自由になるお金は1円もなく、必要なお金はお風呂代が幾らとその都度もらっていました。この叔母さんの元で10年間務めました。お金は全部貯めておいてくれましたので、それを元手に自分で商売を始められたのです。感謝しています。

最初は野菜、果物売りからです。でも沖縄の強い太陽のもとでは大変で雑貨ざっかを売るようになりました。アメリカ兵も買いにきます。商売ですから英語ができないなんて言ってもらえません。1はワン2はツウと覚えスモールやビックと少しずつ覚えました。数字は万国同じなので、なんくるないさー(なんとかなる)精神でやってきました。授業に英語があると分かっていたらもっとやっておけばよかったと思います。その時は英語を宝とは考えていなかったです。

夜間中学に入ったのは、仲間うちで話していた

時テレビで見た学校のことを持ち出したのがきっかけです。内地のことですが、朝鮮の人が学校に通い、新聞が読めるようになったというものです。こんな学校があったら自分も通いたいと言うと、あるよ！と言うのです。いざとなると今さら学校に行っても恥をかくだけだし、目ぐるぐるするから止めようと思ったのですが、カナダから来ていた友だちがまずは見学をしようと誘うので来てみました。ちょうど算数の時間でした。ためしに参加してみたら、私でもこれだったら出来ると感じました。

4月に入ってしばらくは疲れて頭が痛かったです。級友には小学校を卒業している人もいるので、私は付いていけなくなるかもしれないと1日も休んだことはありませんし、復習もします。アルハベットは無理と思ったのですが、いつの間にかABCも書けるようになったし、発音もできるようになりました。辞書も買いました。自分用というのは恥ずかしいので、書店に行って孫に教えたいから1年から6年まで使える辞書はないかと相談して買ったのですが、難しくて使いきれません。楽しいのはやっぱり算数です。みんなと肩を並べてやるのがいいです。

八重山はずいぶん変わったそうです。北海道も東京にも行ったことがあります。18歳で出て以来生まれ島には一度も帰ったことがありません。自分の島なのにホテルに泊まるなんて考えられないです。

* * * * *

〈O・Eさん〉・・・現在 中学3年生

この学校のことは最初家内がラジオで聞いたと思います。父ちゃん、こんなものがあるよ。那覇だって、たしかサンゴと言ったはずと教えてくれました。その後新聞記事を見て、切り抜いてありました。申込みをしたいと見に来たんですが、ちょうどその時は家を改装したばかりで借金があったので、途中で辞めることになるかもしれないと諦めたんです。珊瑚舎を知って10年経って、ようやく入学しました。

父が沖縄戦で耳を悪くし、満足に働けないこともあり、それは厳しい生活でした。小学2年までは通っていましたが、なぜだか分かりませんが自分だけ2年生をもう一回やることになって、言葉にできませんでしたがこの1年は苦痛、傷つきましたね。3年になる時、北部のおばあにもらわれたんです。高利貸しをやっている人で借金のかたととられたということです。朝から晩までブタの世話、芋の植え付けです。3年ぐらいは辛抱しましたが、ここにいたらダメになると地元へ逃げ帰りました。実家に戻ると家はありません。親戚のお店をやっている叔母さんの店先の前を行ったり来たり、入口に立っているから見えているはずなのに声をかけてくれません。ここもやっかいもの扱いかと子どもながら応えました。自分から声をかけると実家は引っ越したとのこと。訪ねると以前よりもみずぼらしい家です。兄弟は2人と思っていたら4人になっていました。親の悪口を言いたいわけではありませんが、子どもを満足に学校へ通わせられないのに、さらに家族を増やしていく、そういうことにたまらないという思いを強くしました。学校に戻れるはずもなく、日雇いで働きました。

14歳ぐらいからは、自分しか頼れるものはないと強く思うようになったのです。ヤマトの会社に

も出稼ぎに出ました。ボーナスがないので、少しでも日当が高い仕事、1時間でも多く働ける場所を探して、がむしゃらに働きます。おもに電気配電工事の仕事でした。この経験が役に立ちました。沖縄に戻ってきて40代ごろ海外の出稼ぎの話があったのです。ただ、その仕事の元締めはヤマトの大きな会社なので、最終学歴がいるよと言われたんです。そこで「中学卒業程度認定試験」を猛勉強で受けました。すべて暗記です。その後採用になりナイジェリアに行き、その後はインドネシアやアフリカなど結構な数の外国で働きました。行った先では誠実に一生懸命仕事をしました。沖縄と海外を行き来し、最後はマリから帰って、やっとこの夜間中学に入学しました。途中で挫折するのは許せませんから。行きたいと思ってから長かったですね。でも、子どももいますし、生活が成り立たないのに自分が学校に通うなんてことはできません。今も農業と漁業をやっています。本当は昼から学校にこもって勉強に励みたいんですが、それは叶わないことです。

学校はそりゃ楽しい。暗記の資格試験とはぜんぜん違います。一步一步自分のものになっていくんです。数学は結構で好きで力を入れてやっていますが、基礎がないと足踏み状態で泣きたくなる時もあります。先生が言うように学校で出来たと思っても一人でやってみて出来ない自分のものにならないと思うんですが、夜が更けていくと明日の畑作業のこともあり途中で放棄しなければならない、ワジワジします。2年生でやった沖縄の歴史には感動しました。ウチナンチュ（沖縄人）なのに沖縄のことをなにも知らないで生きてきたのかと思いましたよ。3年は理科があります。すばらしい。地球のこと、宇宙のこと初めて知ることばかりです。知らなかったことが分かったというより、自分の知らない、分からないことがあったという喜びです。

学校に通って楽になりました。学がない人間は他人からもそうですが、自分で自分をバカにするんです。それが心のしこりになっていました。でも今、学校に通っている、通いつけている、学んでいるということが自分の力になるんです。学校って人に力を与えるところなんです。

この間漁師仲間に3月にやったミュージカルのことを話したら、みんな、そこまでやるのかとびっくりしていました。

(2016年3月に珊瑚舎スコーレ15周年記念行事として、夜間中学生の聞き書きを元に在校生全員でミュージカル「あきさみよー」を上演しました。)

夜間中学の運営にお力をお貸し下さい

学費が壁になり入学できないことは避けたいと考え2008年度までの夜間中学の学費は年間15,750円でしたが、2009年度から運営が難しく値上げをしました。現在の珊瑚舎スコーレ夜間中学は義務教育未修了者の方からは学費を頂いていません。その他の学び直しをしたいという方は年間32,400円となっております。ただ、当然学費だけでは運営できません。様々な方の資金的な援助が必要です。郵便振替以外にも自動引落としや銀行振替、窓口寄付などがあります。

珊瑚舎スコーレ夜間中学校

〒900-0022 那覇市樋川1-28-13階

Tel : 098-836-9011 Fax : 098-836-9070

Mail : sango@nirai.ne.jp

URL : <http://www.sangosya.com>